

## インドネシア雑感（２）

インドネシアは親日の国と言われている。言葉のニュアンスもあると思うが、穏やかな印象を受ける。また、せかせかしない、のんびりした印象をもつ。

一般大衆の行くインドネシア料理など、飲食店は確かに安い。ただし、ビール等アルコールを販売していない店が多い。しかし、アルコール持ちこみの可否を確認するといやな顔一つせず、OKとする店もある。近くのスーパーなどで購入して持ち込みする。地元のピンタンビールを買い込み、食事を楽しむ。インドネシア料理は？と聞かれても、あまり印象に残ったものがない。鶏肉、野菜などを多様なスパイスを効かし、焼いたもの、煮込んだもの、炒めものであったかな～としか言えない。“ミー・ゴレン”は日本の焼きそば風のもの（写真）家庭料理とかで日本のかき揚げのようなものもあった。

一方、ホテル内に代表されるレストランは、中華料理、イタリア料理などあるが、日本とあまり変わらぬ値段である。おいしい料理を頂いた。勿論、アルコールも注文できる。



ここまで来ると、読者は「何をしに出張したのか？」とのおしかりもでてこよう。ここまでの話は、滞在期間のほんの一角である。多くの時間は、もちろん出張目的である、会議やセミナーです。その内容は秘密です。それらの前後で起きた状況を紹介しましょう。

インドネシアはのんびりした印象と言いました。会議でもセミナーも予定の時間に開始されない（言い切ってしまうとお叱りも）のがインドネシア流でしょうか？会議の主役（ホスト）が登場するのが遅れるのは当たり前。セミナー開始時間に聴衆が半分くらいしか集合しない。現在、これが普通のようなようです。結局、開始時間を予定から遅らせることになる。一方、終了時間は予定通りにすることが求められ、進行役は大変に苦労をすることになるのである。スケジュールを作る際には、ご注意ください。

また、インドネシアのセミナーに参加すると、主催者から手当てをもらえるという慣習がある。日本をはじめ、一般にはセミナーなどの参加には、参加費用を支払います。しかし、インドネシアでは、私企業の方は別ですが、公務員の方がセミナーに参加すると、主催者から手当てをもらえるという慣習です。集まりは悪いが、帰りには笑顔でしっかり手当てをもらって帰ります。 トゥリマ・カスイヒですね。

インドネシア雑感（３）に続く

（A.O）